



地図と測量の科学館にある「坤輿(こんよ)万国全図」の一部分。1602年に明朝で製作。世界で最初に日本海の呼称が表記された



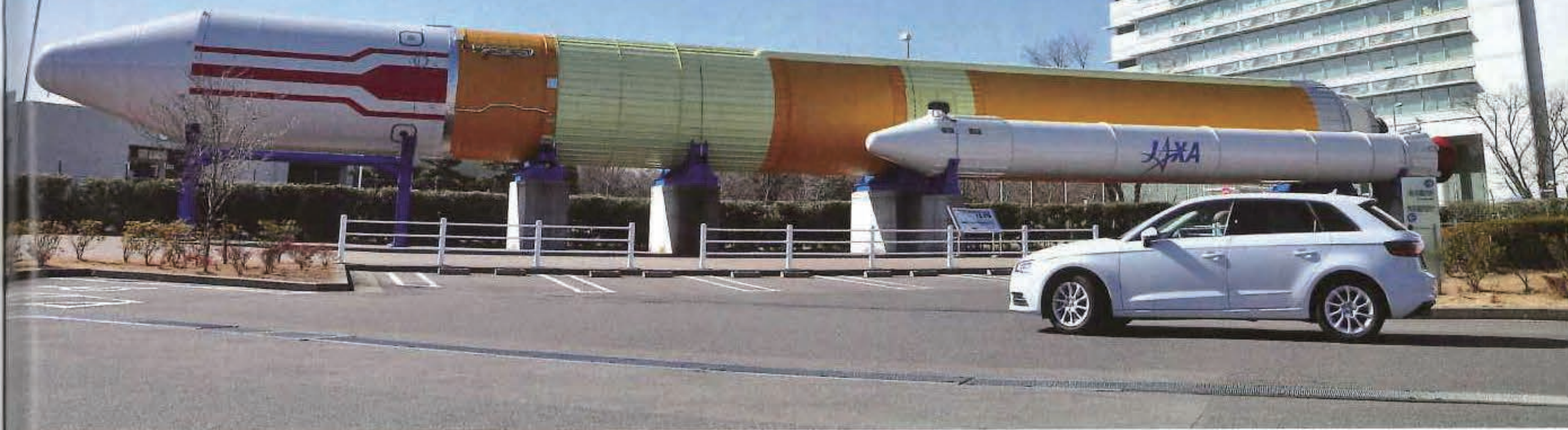
地図と測量の科学館入り口にある10万分の1の日本地図。3Dメガネで見ると立体的に見える

世界地図や、日本最古の地図の行基図、大陸発見の年に製作されたアメリカ大陸が描かれていない「ベハイムの地球儀」など、意外な展示物がいっぱい。1時間では足りないくらいだ。

日本の宇宙開発技術に触れ 1500本の桃の木で花見

次に、15分ほど南下して宇宙航空研究開発機構(JAXA)へ。東京ドーム12個分の筑波宇宙センター

の敷地の一角に、無料の展示館「スペースドーム」がある。フライトモデルとして造られた人工衛星などが展示され、日本



JAXA 筑波宇宙センターの全長50mのH-IIロケット実機。試験用のモデルとして組み上げられたものだが、改修すれば打ち上げることもできる

2月26日に、圏央道の茨城県区間、境古河IC〜つくば中央ICが開通した。早速、圏央道を走り、つくばで人気のある二つの科学館や花桃が見頃を迎える古河市を訪ねることにした。最初は地図と測量の科学館。圏央道つくば中央ICが最寄りだ。ICから県道19号を北へ向かう。この辺りの雰囲気は近未来都市のようで、左右に巨大なショッピングモールが現れる。アメリカの郊外のような風景だ。

交差点の突きあたりが国土地理院で、目的の科学館はその敷地内にある。建物に入ると、床一面の3D日本地図がお出迎え。建設専門官の小島正和さんによると、国土地理院では「標高」という言葉は使うが「海拔」は使わないそうだ。東京湾の平均海面から29・39mの高さにある日本水準原点(国会前庭)が、標高の基準になる。このほか、1602年にイタリア人宣教師が明朝高官の力添えで作製した

の宇宙最先端技術がわかる。日本のロケット開発について尋ねると、「2020年に打ち上げを予定しているH3ロケットは大型化に向かっていますが、費用は現在運用中のH-IIA/Bに比べて半分です」と、広報部の山崎裕一さん。産業基盤として、日本、そして世界各国の利便拡大を目指し、開発中という。国際宇宙ステーションに接続された日本実験棟の「きぼう」の同スケールモデルも興味深い。「国際宇宙ステーションの内部は荷物も多く、



田園と林に囲まれた森ファーム「ゆるりの森」。ゆったりと過ごせる

機械音や空調音があるのですが、きぼうは比較的静か、清潔で、整理されている。だから、各国の飛行士にとっても、ほっとする場になっているんです。日本の技術の優秀さに、少し誇らしくなる。

じっくり見て回ったら、おなががすいてきた。圏央道つくば中央ICに戻り、新規開通区間を走って古河方面に向かう。圏央道は、渋滞回避情報なども得られるETC2.0を搭載していると、通行料金が割引になる。

第14回

今日もドライブ日和

2月開通の圏央道を走り 科学の街から花桃の里へ

〈茨城〉が つくば・古河

ごちそう観光列車 五能線、西武鉄道、長野電鉄、近鉄など

旅行読売

オトナの旅の道しるべ

2017年4月
特別
定価 600円

昭和34年6月29日第3種郵便物認可通券番号
2017年4月1日発行(毎月1回1日発行)



線路の上のレストラン

ごちそう列車



九州4790円、台湾6980円～

お得なLCC旅、続々

【写真】えちごトキめきリゾート雪月花



【モデルコース】スタート▶【圏央道つくば中央IC】-6*0-【地図と測量の科学館】-6.5*0-【筑波宇宙センター】-45*0-【森ファーム「ゆるりの森」】-4.5*0-【道の駅まくらがの里こが】-10*0-【古河公方公園】-25*0-ゴール▶【圏央道五霞IC】

道の駅 まくらがの里こが

茨城県古河市大和田2623
☎0280・23・2661
9時～20時/無休

こだわり野菜や
地元の総菜も豊富

茨城県最大級の道の駅。地産地消のフードコートのほか、直売所、おみやげ処、カフェカーリーなどがある。直売所で扱われる朝採れ野菜の種類の豊富さと量は別格。午後でも十分に商品が並ぶ。地元銘茶「さしま茶」もおすすめ。

地図と測量の科学館 9時30分～16時30分/月曜休(祝日の場合は翌日休)/無料/☎029・864・1872

筑波宇宙センター 10時～17時/月曜休/500円/☎029・868・5000

森ファーム「ゆるりの森」 11時～16時/第1水・木曜休/☎0280・77・0011

古河公方公園 9時～17時/無休/桃まつり期間中駐車料金500円/☎0280・23・1266(古河市観光協会)

では、古河公方公園(古河総合公園)で3月18日～4月5日に開催される桃まつりだ。25畝の園内の半分、5品種・約1500本の桃の木が咲く。江戸初期に古河藩を拝領した土井利勝が、薪不足対策として成長の早い桃の木を植えさせたのが由来だ。1975年の開園を機に花桃を植え、桃林を復活させた。花桃は桜より色が濃くて鮮やかだ。まつり期間中は毎日ステージイベントが行われ、露店や市内事業者による郷土物産品販売もある。芝生にビニールシートを敷き、ひと足早い花見を楽しもう。

圏央道境古河ICから国道4号を北へ10分ほど。国道から少し入ると、周囲の雰囲気ガラリと変わった。田園と平地林に囲まれた、別荘のような建物。オーガニック野菜を育てる森ファーム経営のレストラン「ゆるりの森」だ。薪ストーブが燃えていて、木漏れ日が心を穏やかにしてくれる。「春になるとポピーの

花摘みもでき、摘んだ花は無料でお持ち帰りいただけます」と、食卓デザイナーの森はる菜さんは話す。畑の野菜は収穫して買うこともできる。名物は、常陸秋そばを使った、そば、パスタのランチセット。ポリウム満点で、噛むほどにそばの風味が伝わってきた。ここから、古河の市街地へ。目当



古河公方公園の桃まつりは今年で41回目